

森町合併60周年記念

# 小中学生作文コンクール 優秀作品

◆ テーマ ◆ 「こんな森町ってイイな！」



## 森町ロゴマーク 合併60周年記念制定

希望の太陽輝く春埜山、菰張山、本宮山、八形山、天方城跡、太田川、三倉川、吉川溪谷、葛布の滝の豊かな自然を背景として、「も・り・ま・ち」の文字、北部山林、中部商業、南部農業の地域、遠州森のお茶、鎗の合羽で闊歩する遠州森の石松、遠州森の舞楽を組み合わせ、自然環境、地理、歴史、文化、芸能、観光地、イベント、特産品をモチーフに、「ええら森町」の明るく元気な姿を、誰にでも一目見てよくわかり広く親しみ、愛されるようデザインし、これまた、21世紀をリードする「森町」が力強く飛翔発展する勇姿を象徴した。

森町合併 60 周年記念 小中学生作文コンクール

★ 最優秀作品 ★

「魅力あふれる森町」 森中学校 鈴木 那奈 P 1

★ 優秀作品 ★

「森茶タワーは、高いぞ！」 森小学校 山口 孝太 P 2

「こうなったらいいな森町」 旭が丘中学校 武蔵島 七星 P 2

★ 入選作品 ★

「大好きな森町の自然」 天方小学校 木下 結理 P 4

「自然いっぱい森町」 天方小学校 渡邊 有梨 P 4

「森町の豊かな自然」 天方小学校 渡邊 允登 P 5

「ぼくの大好きな森町」 森小学校 太田 壮起 P 5

「いっぱい人が集まる森町」 森小学校 山本 果和 P 6

「ぼくが住みたい森町」 飯田小学校 山本 拓輝 P 7

「森町の良い所そして、未来に残したい物」

飯田小学校 山口 慧 P 7

「友だちがふえたらいいな」 飯田小学校 さとう ゆづと P 8

「最高の町をこれからも」 泉陽中学校 早馬 千夏 P 9

「未来の森町」 泉陽中学校 奥宮 歩美 P 9

「自然の豊かさを伝える」 泉陽中学校 石塚 寧々 P 10

「お年寄りが住みやすい森町に」

旭が丘中学校 中島 明里咲 P 11

「森町について考えたこと」 旭が丘中学校 黒島 小夏 P 12

「私達のまちはどんなまち？」 森中学校 鈴木 天音 P 13

「守るべきもの」 森中学校 浦野 愛子 P 13

## 【最優秀作品】

### 魅力あふれる森町

森町立森中学校 三年 鈴木 那奈

私は森町がこれからのような町になっていってほしいかを考えた時に、真つ先に今のままでいてほしいと思いました。それは今の森町の魅力を手放してほしくないからです。

歴史ある町並みをはじめ町内には由緒ある神社やお寺も多く遠州の小京都と呼ばれていて、その景観はとても素晴らしいものだと思います。そこには住む人々により受け継がれてきた文化を感じることができ、町外からの来訪者にも伝わっていることだと思います。「町並と蔵展」というイベントのボランティアをした時に、私はそれを強く感じました。同時にこの文化は私たちが守っていかなくてはならないことに気付きました。

しかし、守っていくためにどうすればいいのか考えたところ、難しい問題がありました。それは、後継者が不足してきているということです。とりあえず、少子化や若者の流出を防ぐことが今の森町の魅力を伝えていくには必要不可欠だと思います。観光資源であるお祭りも、屋台をひく人がこれ以上減っていったらどうなってしまうのかとても心配です。舞楽を継承してきた地区も同じようなことが言えるでしょう。これは大人だけでなく子供たちの声も反映される話し合いが必要です。

また、森町にはまだ別の魅力があることを忘れてはいけないと思います。長寿日本一の静岡県の中でもお達者度がナンバーワンという輝かしい記録を持っているのです。これは森町の暮らしやすさをよく表していると思います。職業体験でお世話になったデイサービスでもお年寄りの方々は明るく元気で、初心者の方の方が助けられたくらいでした。お年寄りを大切にしている町はやさしい町というイメージにもつながりますし、福祉が充実している町という印象を持たれると思います。これは森町の新たな魅力です。これからお年寄りの方々から私たちに伝えていただけることは伝えていただき、私たちが次の世代に伝えていければいいなと思います。そして私たちがお年寄りの方々に感謝し、助け合える社会になればより素敵だと思います。

このような森町の魅力が失われないようにするためには、ここに住む私たちがその魅力をアピールできることが大切です。そのためには学校やイベントなどで、森町について学ぶ機会をもっと増やすことが必要です。例えば今よりもクラブ活動に伝統文化の分野を増やすこともいいかもしれません。また、多くの農作物が名産品として知られているので、それを使うレシピをみんなで考えるのも楽しそうです。私は今の森町が好きです。でも、私にも将来就職や結婚など人生の選択をしなければいけないときはきます。そのときまでに森町の魅力をもっと知っていられるようにしたいと思います。そして、悔いのない選択ができるようにしていきたいです。

【優秀作品】

森茶タワーは、高いぞ！

森小学校 三年 山口孝太

ぼくが思う未来の森町は、森小学校の近くに、とても高いたてものがある、その名前は森茶タワーと言います。

そこでは、富士山と東京スカイツリーがいつでも見られるぜっけいスポットです。

この森茶タワーができたのは、同じ静岡に富士山があるのにめったに見られないのと、森茶タワーと東京スカイツリーは、おたがい高いから見えるのです。

森茶タワーは、すごく高くいつきにエレベーターで上まで上がれます。その間ひまなので外が見えるように、全部ガラスばりできています。外のけしきは、茶畑・田んぼ・太田川・海などが見えます。

てんぼう台の所には、ゆるキャラの森茶もりちやんがいます。緑色の葉っぱのような精なので子供に人気です。

森茶んは、おいしい森のお茶をくばってくれて、とうもろこしのおかし「とうがし」をくれます。

夜になると緑色のお茶の葉の絵をライトアップして、お茶のかがりかします。

こんな楽しい森町になればいいと思います。

【優秀作品】

こうなったらいい森町

旭が丘中 一年 武蔵島 七星

「お達者度、森町が男女とも一位なんだって」と新聞を読んでいた母が言った。

「お達者度って何？」

「六十五歳になってから介護を受けずに健康に生活できる年数だって。」

「へー、と言う事は、森町は平均で男の人が八十四・四九歳、女の人が八十七・〇五歳まで元気ってことだね。」

私も新聞をのぞき込みながら言った。

昨年亡くなった私の曾祖母そうそぼも九十歳の誕生日近くまで、介護保険のお世話にならず元気だったことを思い出す。

静岡県で森町が一番の理由はなんだろう？と考えた。昔から森町に住んでいる人が多くて近所付き合いや地域の交流が盛んだからだろうか。

グランドゴルフのチームやシニアクラブも円田にはある。畑や田んぼで高齢になっても働いている人が多く、よく体を動かしている事も要因か。

自分の役割があると生きがいを持つと思う。また孫やひ孫と一緒に住んでいると、成長を見届けたくてもっと元気で長生きしようと思うのかもしれない。

私の曾祖母も、ずっと畑仕事や草取りをやっていたし、さわふれクラ

ブやグランドゴルフに参加する事も楽しみにしていたようだ。私ともトランプやボードゲームもやってくれたり、兄の分と二人分のベストを糸糸で編んでくれたりしたことも覚えている。

しかしながら私達の町森町も、全国の多くの町がそうであるように高齢者のひとりぐらしや高齢者世帯が増えていると聞く。お達者度No.1という事は、裏を返せば高齢化が進んでいるという事でもあるだろう。それでもこれからも元気な町ではどうしたらよいのだろう。

母と話しをしている中で、「葉っぱビジネス」で高齢者が活躍している徳島県の過疎の町がある事を知った。私は早速インターネットで調べてみた。徳島県上勝町<sup>かみかつちょう</sup>。平成二十七年三月の人口はわずか千七百三十三人、八百四十三世帯、高齢化率なんと五十一・四一パーセント。その町で高齢者の方が、料亭や旅館などの料理を美しく彩る「つまもの」を栽培し、全国に出荷しているという。パソコンやタブレット端末などのITを活用し全国の市場情報を自ら分析して。「葉っぱビジネス」は、商品が軽量できれいであり女性や高齢者でも取り組みやすいのがポイントだそう。出番や役割が出来た高齢者は元気になり、町の雰囲気も明るく、「葉っぱビジネス」の仕事が忙しくなってきたため老人ホームの利用者が減り町営の老人ホームはなくなったという記事もあった。

私は上勝町について調べてみて、高齢者の方にいつもまでも元気で過ごしてもらうには、介護施設の充実も必要だが、無理なく楽しく働ける仕事があることが大切だと分かった。森町でも地域資源、特性を生かした高齢者が活躍できる産業やサービスが生まれ、自然と介護が必要なお

年寄りが減り、さらに魅力のある町になれば若い世代が地元に残ったり外から入ってきたりするだろう。そして、森町が全国に自慢できる町になったらどんなに素晴らしいだろう。

## 【入選作品】

### 大好きな森町の自然

森町立天方小学校 六年 木下 きした 結理 ゆいり

私は、今の森町が大好きです。自然に囲まれていて、山と森でいっぱいです。

私が一番好きな場所は、私が住んでいる地域に葛布の滝があります。私も葛布の滝に行ったことがあります。葛布の滝は、四種類あって、一の滝と二の滝と三の滝ともみじの滝があります。その中でも私は、もみじの滝が好きです。もみじの滝には、もみじはさいていけないけれど、もみじのようにあざやかな葉っぱがたくさんついています。飲めるくらい、きれいな水が流れています。小さい魚から大きな魚がいます。私も小さいころ葛布の滝で魚をつったことがあります。とても楽しかったです。また、行きたいです。

もう一つは、大好きな自然で育てられた竹の子です。私は、竹の子が大好きです。なぜかと言うと家のおくに、竹の子畑みたいな所があつてそこで育てている竹の子はともあまくておいしいです。大きさはいろいろありますが、竹の子の先が黄緑色がとてもおいしいです。私は、自然が大好きです。自然は、いろいろな物で私たちを支えてくれます。だから、私たちは毎日、幸せにくらせています。自然のおかげです。私は、自然に感謝したいです。これからは、自然を大切にし、何万年たつても

自然が豊かできれいな所でいてほしいです。

### 自然いっぱい森町

森町立天方小学校 五年 渡邊 有梨

私は、森町が大好きです。なぜかという、森町はどこから見ても山が見えます。自然がたくさんあります。山に日がしずむと、真っ赤な夕焼けが見れてとても美しいです。夜になると、星がたくさん見れてとてもきれいです。道を歩けば、いろんな人があいさつをしてくれます。そのあいさつで私は、とっても気分がよくなります。動物もたくさんいます。動物にとって森町は、とてもいい所だと私は思います。

わたしが住んでいる所は、大鳥居です。大鳥居は、道を歩けば、茶畑や田んぼがあります。私たちの学校では、地いきの人の力をかりて、田植えをします。この大鳥居は、みんなで力を合わせて助け合っていていきます。近所の方々は、とてもやさしく、よくおすそ分けをしてくれます。夏になると、学校の帰り道に梨をくれるやさしいおじいさんもいます。学校の行事にたくさんの方々に参加をしてくれます。私は、とってもうれいします。ここに生まれてとってもよかったです。

私は、この森町をずっと守りたいです。茶畑や田んぼや山とっても緑がいっぱいで、とってもよい所です。こんなによい所は、そんなにないと思っています。自然がたくさんいるんな所にあるように広めたいです。

みんな楽しくみんな笑顔でくらせるようにしたいです。ほんざいがなく  
て、一人一人生き生きとくらせるようにしたいです。十年後にも、そう  
したいです。生き物も、人間も、植物も豊にくらせれるということを広  
めてあげて、農業もさかんになりたいと思います。このよい所がうしなわ  
れないようにしたいです。それが私の思いえがいている未来の森町の姿  
です。

### 森町の豊かな自然

森町立天方小学校 五年 渡邊 允登

ぼくは、森町が大好きです。その理由は、森町には、大自然があるか  
らです。

春には、山にいろいろな花が咲き、桜のトンネルもありとてもきれい  
です。夏には、山が緑にそまり、きれいな川も流れています。秋には、  
山がオレンジ色にそまり、イチヨウやモミジがともきれいです。冬は、  
山が白くなり、梅の花が咲いてとてもきれいです。

森町の奥には、カワセミ湖があります。そこには、カワセミがいます。  
ほかにもホタルの里という所があります。そこには、きれいな滝が流れ  
ています。そこには、ホタルがいます。夜になるとホタルの光がとも  
きれいです。ホタルは、きれいな川や滝の所しかいません。滝の近く  
にホタルがいるということは、その滝がきれいと言うことなのでとも

うれいします。ほかにも森町には、きれいな川がいっぱいあるので、ホ  
タルもたくさんいます。これからもきれいな川にしてほしいです。

ぼくは、大人になったら、ちがう所に住むか、森町に住むと思うので、  
これからもこの森町を大事にして、日本一きれいな森をいろんな人に知  
らせたいです。そのためには、自然をつぶさず、ゴミ拾いなどを心がけ  
たり、ゴミを山に捨てないようにしたいです。川もとてもきれいなので、  
ゴミを拾ったり、ゴミを捨てないように心がけます。これからは、森を  
大事に、自然を大事にします。山には、いろいろな動物がいて、タヌキ、  
キツネ、フクロウ、イノシシなどがいます。この動物は、いつも山にい  
るので、山にゴミを捨てるということは、動物たちの家をよごしている  
ようなものだから、絶対に、ゴミを捨てたりするのをやめたいです。こ  
れからもこのきれいな大自然を大事にしていきたいです。

### ぼくの大好きな森町

森小 三年二組 太田 壮起

ぼくの、住んでいる森町は、おまつりがとてもさかんな町です。ぼく  
が一才から通ったまやほいく園では、年長のクラスになると、たいこを  
園長先生が教えてくれます。おまつりが終わっても、いつまでもおほや  
しが聞こえてきます。ぼくも大きくなったらふえをおぼえて屋台につ  
てふえをふいてみたいです。あと大人の人達が楽しそうにやっている「ね

り」も早く入ってみたいです。

ぼくのおじいちゃん、おばあちゃんは、森町で生まれ森町でぞだった  
そうです。むかしはぼくの住んでいる南町には、たんぼやはたけが多く  
今のようには家がたくさんなかったそうです。ぼくが大人になる頃には、  
今の森町をすっかりおぼえていて、「ここがよかったよ。」「ここがこうだ  
たよ。」という所をしょうらいつたえていきたいです。

ぼくの、しんせきにもありますが森町にはお茶屋さんがたくさんあり  
ます。今年ぼくも、お茶つみ体験、工場見学をさせてもらいました。お  
茶ができるまでには、すごい時間と人の手がかかっていることをはじめ  
て知りました。ぼくはまだ、お茶の味はわかりませんがお父さんは毎日  
「森のお茶はおいしいな。」といっているんです。これからも、おしい  
いお茶を作ってもらいたいです。

昔、森町にはえいが館があったそうです。ぼくもえいが館が大好きで  
す。大きなショッピングセンターやえいが館が森町にもできるとうれし  
いです。

さい後に、ぼくは毎日のようにお父さんと川遊びをしています。川遊  
びでできた友だちもたくさんいます。これからも安心して遊べる太田川  
を残していくために、よごさず遊んでいきたいです。

いっぱい人が集まる森町

森小学校 五年 山本果和

「果和ちゃん、おかえり。今日も一日暑かったね。」と学校帰りの私に声  
をかけてくれる人が大ぜいいます。畑仕事をしているおばあちゃん。犬  
の散歩をしているおばさん。通学路に住んでる人達。高校生の知らない  
お兄さんやお姉さんときどき声をかけてくれます。わたしの家は広い  
道路からずっとおくにあるので、途中から友達と別れて一人になります。  
そんな時に声をかけてもらうととても安心します。

わたしの通う森小学校は、中学も同じ友達と通います。ようち園から  
ずっといっしょの子もいます。森のお祭もあるので、町全体が知り合  
いです。大門のはつびをきているとおじいちゃんやお父さんと顔がに  
るのでこの家の子なのかすぐに分かってもらえます。大人も子ども  
地いきの仕事に一生けん命とり組んでいるからだと思います。

お母さんの卒業した小学校は五クラスもあって、一度も同じクラスに  
なったことがない子、お話をしたことがない子がいたと聞きました。わ  
たしは、同じ学年の子は名前も顔も住んでいる地区も全部分かります。  
でも、たった二クラスしかないので分かるのはあたり前かもしれません。  
お母さんはわたしよりたくさん同級生がいたのかナーとうらやましく  
思いました。人数が少ないから良いこともあるけれど、もしも同級生が  
多かったら、ドッジボールやサッカーをもっと楽しめたかもしれません。  
わたしたち森小学校のみんながいるんなことに一生けん命になって、

「森小は楽しいよ。勉強や運動もがんばるよ。いじめもないよ。」という学校になって、大ぜいの人が森町に引っ来してこれば、もっともっと便利になってすみやすい森町になると思います。

### ぼくが住みたい森町

森町立飯田小学校 五年 山本拓輝<sup>ひろき</sup>

ぼくが住みたい森町ってどんな町だろう。山から恐竜の化石が発見されて有名になる町や、遊園地があつてたくさんの人が遊びに来てくれる町。いろいろ考えたけど、それはぼくの夢の町です。夢の町が本当になつたらうれしいけれど、ぼくの家族がずっと笑顔ですごせる町をもう一度考えてみました。

今ぼくがくらしている森町は、緑豊かな森林ときれいな太田川があります。たくさんさんの神社やお寺があり、有名な森のお祭りもあります。それからお年よりが元気で長生きする町としても有名です。ぼくにはやさしいおじいちゃんとおばあちゃんがいます。たくさんのお年よりが緑豊かな自然の中で、いつまでも元気にくらせるお年よりにやさしい町になつてほしいと思います。

そのためにはどうしたらいいのかと思つて「福祉」について調べてみました。すると、「バリアフリー」という言葉が出てきました。だん差や階段がなく、車イスの人やお年よりが動きやすい道。点字や案内があ

つて目や耳が不自由な人が困らない町。そんなすごしやすく、人にやさしいバリアフリーのととのつた町になるといいなと思います。

それから、恐竜の化石の発見や遊園地は夢かもしれないけれど、森町は「遠州の小京都」といわれ、たくさんさんの有名な神社やお寺、豊かな自然があります。むかしの人が、大切に残してきた豊かな自然を生かしてたくさんの人に森町に来てほしいと思います。そして、これからぼくたちが森町の伝とうや自然を守り、ひきついでいく必要があると思います。ぼくが住みたい町。それは、人にやさしく思いやりにあふれて、たくさんの方がこの森町の伝とうや自然を見にきてくれる元気で明るい森町です。

### 森町の良い所そして、未来に残したい物

飯田小学校 六年 山口 慧

二〇一五年現在、ぼくは、森町に住んでいます。森町には、数々の良い事があります。

一つは、森町の特産物です。例をあげると、お茶、柿、メロン、トウモロコシなどです。特にお茶はすごく有名だと思います。森町のお茶はとてもおいしいです。コクがあり、飲む者をみりようする味だとぼくは思います。柿は次郎柿と呼ばれ、町には原木が残されており、今も実をつけています。柿は甘く、とてもおいしいです。トウモロコシは甘々娘、

甘太郎などの品種があり、遠くの県からも買いに来る人がいる程有名になりました。とてもおいしく、お菓子のように甘くて、ぼくも大好きです。その他の特産物も、未来でも残り続けて、いつまでもおいしく食べていきたいなと思います。

二つ目は、緑豊かな自然です。自然は、森町の森がついた理由と聞いたことがあります。おだやかな緑にかこまれた町は、とても森町にとってかかせないものだと思います。

三つ目は、伝統行事です。主にお祭りや舞ですが、こちらも森町にはかかせません。飯田の舞は国指定文化財となっていて、とても有名です。ぼく自身祭がとても好きなので、舞やお祭りを長く残してほしいです。このように森町には、良い事、そして未来へ残したい事がたくさんあります。三方を山に囲まれた森町が、未来には人口が増えて、にぎやかで元気な町になってもらいたいものです。

今、日本は高れい化問題になやまされているのです。だけど、栄えれば、若い人や赤ちゃんなども生まれていきます。ぼくは森町がそのようになつてほしいと思っています。そしていつか、森「町」から森「市」へ変わってほしいなと思いました。

友だちがふえたらいいな

いい田小学校 三年 さとう ゆづと

ぼくがすんでいる森町は、楽しいです。だけど、友だちが少ないと思います。ぼくが行っている小学校は、一学年一クラスしかありません。それは、森町がいなかだからだと思います。都会は、店がたくさんあっていろいろな物を買うからたくさん人がいるのかなと思います。だけどぼくは、いなかの方が好きです。なぜかという虫とりがたくさんできるからです。ぼくは、虫とりがすきで、クワガタを三びきかっています。三びきのうち二ひきは森町でつかまえました。都会は、人がたくさんいても虫が少ないし、遊園地があってもお金がかかって毎日行けません。だけど、公園は、ただだし虫とりも毎日できます。だからいなかの方が好きです。

ぼくは、み来の森町は、公園がもつとふえて、ぞう木林ができてほしいです。公園がたくさんできたら、ボール遊びもできるし、かけっこだってできるからです。ぞう木林があると、じゅえきがすきな虫や、木にすを作る虫がたくさんくると思います。今よりもたくさん虫とりができたりするかもしれません。そうならぼくもうれしいです。

そして、外で遊ぶのがすきな子や虫とりがすきな子が引っこしてきて、友だちがたくさんできるといいです。したら毎日のように遊べるからです。み来の森町はしぜんがもつとふえて、子どもがたくさん遊べる町になつてほしいです。

## 最高の町をこれからも

森町立泉陽中学校 三年 早馬 はやま 千夏 ちなつ

「お達者度、静岡県内で森町が男女共に一位」

先日、県内放送のニュース番組を見ていたときに取り上げられていた話題です。みなさんは、『お達者度』とは、どのようなことか知っていますか？。私は自分の住んでいる森町が一位になった『お達者度』のことがどのようなこと知らなかったため、調べてみました。『お達者度』とは、六十五歳から何年間健康で過ごせるかを示したものと、書いてありました。私は、この『お達者度が一位』と分かったとき、「森町に住んでいる人は、健康で、元気だな」と感じました。この健康でいる人が多いのも、森町には、たくさんいいところや、自慢できるところがあるからだと思います。例えば、自然環境がとても良いことや、人と人の関わり方やおいしい食べ物があることなどがあります。

私は、森町に十五年間住んでいます。森町で生まれ、生まれた時から森の自然豊かな空気を吸って育ってきました。私は、森町が大好きです。そして、森町で生活できていることがとてもうれしいです。春には、向天方の桜トンネルが見ることができて、夏には、太田川の川岸でバーベキューをしたり、秋には、きれいな紅葉を見ることができ、冬には、レタスなどの冬野菜を食べることが出来ます。そして、私の好きな場所は、家から歩いて、すぐの少し高い茶畑です。幼いころから、その茶畑から見える景色がきれいだったので、よくその場所に行っていました。茶

畑からは、水のきれいな太田川や森の街が見えたりと、とても森町の良さを感じることが出来る場所です。

最後に、私が住んでいる森町は、とても良いところです。四季折々の景色を見れて、森町の人たちは、とても良い人たちです。あいさつをする、あいさつを返してくれる人がたくさんいます。そんな森町で生まれ、育ったことを私は、誇りに思います。そして、私は、これから大人になると共に、この大好きな森町を守っていきたいです。自然、人、そのほかの森町の良いところを。また、『お達者度』が一位のように、これからも、六十五歳以上の人だけではなく、小さい子供から、お年寄りの方森町民全員が健康であってほしいと思います。

森町って小さい町かもしれないけれど、いいところ、場所がある最高の町です。

## 未来の森町

森町立泉陽中学校 三年 奥宮 おくみや 歩美 あゆみ

森町の未来を考えるうえで現在の森町がどういう現状なのか調べてみました。人口は、平成七年から減少傾向にあり、平成二十年に二万人をきっていました。しかし、世帯数はわずかではありませんが増加しています。

次に、森町の産業を見ると、工場数は減少しており、平成二十一年に

百事業所をきっていました。

商業では、個人経営の店舗が減り大手スーパー、コンビニエンスストアが進出してきています。特にコンビニエンスストアが増加しています。

農業では、専業農家、兼業農家とも著しく減少しています。主要産物のお茶は減少、お米は変わらず、とうもろこしは増加しているのが分かりました。森町のとうもろこしは、人気があるようで町外から多くの人買いに来ています。

森町の現状を見ると、人口の減少とともに核家族化、高齢化がすすみ、子供の数も減り学校の児童・生徒が減少し、学校の統廃合の問題が出ています。

このような現状から未来の森町を予想するところのままいけば、人口は減り続け高齢化が進み農家の減少、工場の減少が進んでいくと思います。そしてやがては森町自体がなくなってしまうかもしれません。私は、生まれ育った故郷がいつまでも残ってほしいと思います。その為には人口の減少を止めないといけません。高齢化を抑えるために若い人たちに住んでもらわなければいけません。

森町にはたくさん空き地があると思います。その空き地を有効活用してアパートとか住宅にして町外より安い家賃で提供して若い人たちが住めるようにしたらよいと思います。働く場所も必要です。積極的に工場を誘致して働く場所を確保した方がよいと思います。若い人たちが増えれば、子供も多くなると思います。そうすると保育園・幼稚園などの子供を安心して預けることのできる環境を作らないといけません。また、

学校に通学するための交通手段を整備して安全に通学できるようにしていく必要があります。高齢者も安心して生活できるように福祉施設を充実させることも必要です。農業も大変だと思えますが農地を守るためにとうもろこしのように需要がある農産物を作ることを町全体で取り組んで守ってほしいです。

このように私の生まれ育った森町がいつまでも明るく残ってほしいです。

### 自然の豊かさを伝える

森町立泉陽中学校 二年 石塚 寧々 いしづか ねね

森町の良いところ。それは主に何だと思えますか？

私は「自然の豊かさ」だと思います。春は桜がきれいに咲きほこり、夏は緑の葉ときれいで透明な川の水が活き、秋は葉が色づき、町の中で柿の木があざやかになる。冬は葉や花が散り、虫の鳴き声が静かにこだまする。

四季のうつろいが目にも、耳にも、はだでも感じとれる。それが森町の良いところ、残していきたいところではないかな、と思います。

この環境で育った私は、人との触れ合いこそ少なく、時にさみしさを感ずることもあります。ですが、人との触れ合いが少ないからこそ、人との関わりが深くなり、明るく楽しく接することができると思います。

こういう自然の中でしか築けない人と人とのつながりがあるのです。自然といえば私達の森町には、お茶や柿、わらびや川のようなぎや、あゆなどの生き物や植物があります。それも将来、森町の子供たちに残していきたいことです。

山に行けば、自然に生えるわらびなどを採ることができ、いのししや鹿などの野生の動物を見ることが出来ます。

川では、野生のうなぎやあゆなどもつることが出来ます。ここでは、たくさんの方が川遊び、山登りにも来ます。話して交流を深めることも、一緒に遊ぶことも出来ます。

森町の山や川は人々の交流の場でもあるのです。

時代が進んでいくごとに施設などが増えていくのは、仕方がないことです。ですが、少しでも多くの自然を残し、守っていきたく私は思います。そのために、何をやっていかないとけないか考えました。

まず、自然を大切に守ることで。守とは具体的に何をするのか。

一番大事なのは、自然を汚さないことです。草や土などは山や川に害はあまりありませんが、ペットボトルやお菓子などのゴミは、土にかえりにくく害があります。

そして、そのきれいさを守ることも大切です。ゴミ拾いなども行うこともできるし、捨てる側には立たないことも出来ます。

今まで育ってきた私達のふるさとの自然は人と人をつなぐかけ橋にもなれると思います。進むことは良いことですが、守らなくてはいいけないものもあると思います。

育ってきたふるさとと、ふるさとの人への感謝の思いをこめて、ふるさと自慢の、自然を守っていきたくです。

お年寄りが住みやすい森町に

旭が丘中学校 二年 中島 明里咲

わたしは、今の森町を考えてみた。そこで思ったことがある。

若い人たちが中心になってひとりひとりが自分のことしか考えていないのではないだろうか。そして、もっともとお年寄りが住みやすい森町になるのではないのか。

まず、私がお年寄りに対してやったことのある行動は何かと思い返した。私は、バスで席をゆずる、重い荷物を持つ、困っている時に、だいたいようぶですかとたずねる。などといったことだ。まだまだ自分ができることはたくさんあると思う。それに、困っているお年寄りがいたら助けるという基本的なことができていない人がいる。これが、一つの課題点だと思う。

それは、お年寄りにとって住みやすい道具や接し方だと思う。

お年寄りが使いやすい道具というのは、私はこう考えた。お年寄りでも使えらるる携帯などを作ることだと思う。接し方は、お年寄りだけで住んでいる家などに毎日見まわり行く人を作るなどと、つねにお年寄りが安全に暮らせるようになることをもっと増やしていけばいいと思う。

私は、おじいちゃん、おばあちゃんが大好きです。いつも笑顔だからです。なので、これからの未来は、今よりもっとお年寄りが暮らしやすい町に、私たちがしていかなければいけないと思う。

まずは、お年寄りに対する対応を、ひとりひとりがもっと変わり、意識していけばいいと思う。

私たちが大人になったときは、もっと良い森町になるよう、頑張りたいと思う。

### 森町について考えたこと

旭が丘中 二年 黒島 小夏

私の住んでいる森町はいいなです。坂道も多くだんさも多いです。そんな森町を私は、お年寄りの方々が住みやすいような町にしていきたいです。お年寄りの方々が住みやすい町になるためにはどうすればいいか私なりに考えてみました。まずは、だんさをなくしたらいいと思います。お年寄りの方々は、足腰があまり強くないと思います。元気な方もいらつしやるけど、つまづいて転べばケガをしてしまうかもしれません。お年寄りの方々の中にはつえをつかっている方や車いすのついている方もいらつしやいます。だんさにつまづいて転べば入院する大ケガにつながるかもしれません。家族の方も心配するし、だんさは怖いものです。なので私はお年寄りの方々が住みやすい町になるには、まず、だんさを

なくしたほうがいいと思います。もちろん階段もです。小さなだんさも大きなだんさも全部なくして、つまづいて転ぶことがないようにしたいです。

次に私が考えたのは手すりです。ショッピングモールなどの階段には手すりがついています。この手すりが外にあったほうがいいんじゃないかと思いました。外にも階段はあります。ちよつとした階段だけど、それでも手すりがあるのとないのはきつと登りやすさや安心感がちがうと思います。階段つてのぼる時より、おりる時の方が怖いと思います。私もそう思っているのできつとお年寄りの方々もそうなんだと思つています。なので、手すりはあつた方がいいと思います。雨の日や雪の日など、地面がすべりやすい時に何もな状態て坂をおりたり、階段をおりたりするとすべつてケガをしてしまいます。お年寄りの方々はふんばる力が私たちよりも弱いと思うので手すりがあればすべつてころんでしまうのをじせんに防げるんじゃないかと思つています。やつぱり外に手すりはほしいと思つています。

私が思つたのはこの二つだけです。でもきつとまだ他にもお年寄りの方々が住みやすい町にするための方法はたくさんあると思つています。自分の身のまわりにそのヒントはたくさんあると思つています。すぐにはだんさをなくしたり、手すりをつけたりすることは難しいと思つています。それができるまでは、まわりがお年寄りの方々をささえ、助け合いながらつていこうと思つています。

私達のまちはどんなまち？

森町立森中学校 三年 鈴木 天音

「森町はどんなまちですか？」

みなさんはこの質問にどのように答えますか。私は「美しい自然とふれあえるまち」と答えます。なぜこのように答えるかというと、私は生活する中で、様々な場所・場面で自然にふれあうことができているからです。

私がみなさんに一番おすすめしたい場所は「町民の森」という場所です。ここには、約二十三種百種類もの植物が生育しており、四季折々の山野草に出会うことができます。まさに自然の宝庫です。また、広さ四十ヘクタールの広大なパノラマを楽しむこともできます。町民の森では、老若男女、様々な人々が散策を楽しんでいます。しかし、「町民の森」という場所を知っている人は、まだまだ少ないように感じます。名前だけなら知っている、聞いたことがあるという人は多いのではないのでしょうか。自然と気軽にふれあえる場所があるのに、町民であるみなさん一人一人に知られていないというのは、とても悲しいことです。この状況を改善していくために、町民の森を会場とした植樹運動や散策ツアーなどのイベントを行うべきだと思います。今年、森町は合併六十周年記念を迎え、その記念事業の一環として、十一月一日に町民の森で記念植樹が行われます。この記念として一回だけでなく、定期的に植樹運動を行えば、町民の森や森町の自然に興味を持ってもらえるでしょう。また、

町民の森で散策ツアーを行うことも良いと思います。四十ヘクタールの広大な自然を満喫することができる。”やすらぎの丘“や歩きたびに新しい発見と心地よい森林浴が味わえる遊歩道”木漏れ日の道“など、この他にもたくさん見どころがあるからです。散策ツアーなら植物に詳しい方がガイドとして同行します。そういった点も魅力の一つになると思います。

私は、このような活動をすることで、森町の自然の豊かさを再認識してもらおうことができると考えます。そして

「森町はどんなまちですか？」

と質問された時、「美しい自然とふれあえるまち」と答える人が増えるでしょう。

森町の美しい自然が、町民であるみなさんはもちろん、町外の人からも愛され、大切にされていってほしいと思います。

守るべきもの

森町立森中学校 三年 浦野 愛子

私は以前、「森町とはどんなところか」と聞かれたことがありました。その時の私は、森町といえば、やっぱり自然が素晴らしいという印象が強く、緑がきれいということしか言えませんでした。でも、今回の作文を機に森町について改めて考えようと思いました。

森町について考えて、まず思ったのは森町の人たちは心があたたかいということだと思います。

例えば、毎朝学校へ行く時、帰る時など、たくさんのおいさつを交わしたり、気軽に年の離れた方々とも話せるということです。そして、森町自慢の祭りでは、森町の多くの人が事前に集まり、みんなの安全を考えていたり、祭りの当日では、盛り上げて楽しもうという一体感があります。

日常の中で、森町の人たちの心があたたかいことを思うことは本当にたくさんあります。森町では、事件や犯罪がほとんどないということも、森町の人たちの心にあたたかさをもっているからだと思えました。

次に思ったのは、森町の地盤が良いということです。今、静岡県を含む東海地方には、大地震が予想されています。それにとまって、富士山の噴火や大津波も心配されています。ですが、森町は、地盤がいいので、地震がきても、その揺れが他の地域よりも軽減できるということです。津波も火山灰の被害を受けることも少なく、安全な町であるということです。地震だけではなく、台風の被害も今まで、あまり受けたことは少ないです。なので、森町は、そういった自然災害の被害を受けにくい町だと思います。

森町について考えてみると、素晴らしい点、他の地域に自慢したくないことがたくさんできました。そういうところをこれから、もっとアピールしていくべきだと思います。私が、すぐに思いついたのは、防災に関することです。地盤が良いという面をアピールするために、例え

ば、もっと被害をなくすために、今まで以上に防災について、森町の人たちに知ってもらおうことです。そうすれば、森町は今よりも、ずっと良い町なると思いました。会場には、最近できた新しい体育館を使用すれば、たくさんの人たちが集まることができ、その上、地域の人たちと関わるとても良い機会になると思います。

自然の緑が美しく、人の心があたたかい、そして、地盤が良い、そんな素晴らしい森町で過ごしている私たちは、幸せだと思います。昔から、私たちの幸せをつくり、私たちを守ってくれてきたのだと思います。だから、守られている分、私たちも森町を守り続けなければいけないと思います。森町の魅力であるものを壊さず、伸ばしていけるようにしていきたいです。

「森町とはどんな町か。」

私たちを守ってくれる、大切な町